

電気通信協会「ICT事業奨励賞」受賞

2015年5月20日に、R&D戦略部の中村 寛氏が「VoLTEの開発」への功績により「ICT事業奨励賞」を受賞しました。ICT事業奨励賞とは、ICT事業の技術的推進・普及・発展のために顕著な貢献をしており、中心のかつリーダー的役割を果たしている個人を対象に一般社団法人電気通信協会より授与されます。ドコモからは、平成25年度に「docomo LTE Xi（クロッシィ）」により中村 武宏氏が受賞しています。

本賞は、平成13年に始まった「ICT事業奨励特別賞」が、電気通信協会75周年（平成25年）を機に名称を「ICT事業奨励賞」として公募を開始し、受賞者数が拡大されたものです。前身の「ICT事業奨励特別賞」についてドコモは、第1回（平成13年）に、「iモード」により榎 啓一氏が受賞しています。

LTEは高速・大容量のデータ通信を実現する技術として広く普及していますが、音声通信は前世代の3Gを利用して提供されてきました。これに対してVoLTEはLTEを利用して音声通信を提供する技術であり、音声通信とデータ通信の両方をLTEで実現します。よってVoLTEの導入は、3Gに頼らない移動通信サービスを提供可能とし、3GからLTEへのシステム移行や周波数の有効利用に大きく貢献するものです。またVoLTEは高品質電話やビデオコールを用いた利用シーンが考えられ、音声通信の新たな市場拡大が期待できます。

中村氏は、このようなVoLTEの基盤であるLTEの標準化活動や開発に貢献し、さらにVoLTEにおいても、

業界標準仕様の策定活動にて日本市場の要求条件を反映させるよう導くなど、LTEからVoLTEまで一貫して中心的役割を果たしてきました。また、ドコモにおけるVoLTE開発において、スマートフォン端末、無線アクセスネットワーク、コアネットワークすべてに関わる大規模開発プロジェクトを統括するリーダーとして指導力を発揮し、社会インフラの音声サービスとなるVoLTEを完成させ、安定した品質でお客様に提供していることは、事業的な貢献も極めて大きいものです。また、いち早くVoLTEの開発・導入を成し遂げたことで、ドコモはグローバルのVoLTE市場における先頭集団に属しており、日本の移動通信市場の発展においても大いに寄与したことが認められ、今回の受賞となりました。

